



## なんごく・こうち地方拠点都市



# アクションプログラム ④

## “自立への挑戦” はいま！

「ごめん」というユニークなネーミングの後免町。昭和四十五年(1970年)に都市計画決定してからの懸案事業が地方拠点都市の指定をバネに動きだしました。

「時間と資金」「合意と情熱」が求められる大事業への「後」に引けない挑戦、でもあります。

今回から、三回に分けて、その概要を紹介いたします。

ザ・ごめんパワーアップ

シティー(その一)

### 後免町周辺の再開発

「時間と資金」の

かかる事業

▲「ザ・ごめん」事業の全体計画は、どんなに나っていますか。

後免町市街地周辺と吾岡山のエリアで約八二％です。主な事業は後免町周辺での

市街地再開発などと幹線道路である旧国鉄前線・高知南国線(幅員二五・二七)の新設、舟入川の河川改修(親水公園)、公営下水道など都市的整備をします。また、教養・文化施設では世界のオルゴールの館、グレイドの高級文化ホールを核とした公園などを一体的に整備して、魅力のある都市生活空間づくりをします。

▲昭和四十五年(1970年)に都市計画を決定してからの懸案事業ですが、地方拠点都市の地域指定を受けて一気に推進しようとしているわけですね。

再開発事業は、「時間と資金」のかかる大事業です。それこそ関係者の「合意と情熱」が前提ですから。今回の拠点都市指定でのメリットを生かさなければ、未来永劫にできない事業だといえます。

「舟入川」と

「ごめん」大切に

▲街づくりの全体的なイメージは、どんなに考えられていますか。

南国らしい店づくり、市民のライフワークにのびるカルチャー施設、ホテルや金融機関、若者に魅力のある都市的マンション、快適でゆとりのある都市型住宅地。そして、都市のオアシスとして吾岡山

なネーミングを大切にしながら、全国どこに行ってもあるような「金太郎アメの街」ではなく、南国らしい「にぎわいとうるおいのある街」が目標なんです。

▲具体的には、どんな事業として進めていきますか。

まず先行しているのが後免町市街地再開発七・〇％で、地元準備組合を中心に進められています。駅前町土地区画整理事業一三・一％は地元説明を行っているところです。後免町駅前周辺九・〇％は商工会の「基本構想」も提案されています。土佐電鉄の「はらたいら」と世界のオルゴールの館」は完成しました。

また、後免町の電車通り南のコミュニティ住環境整備四・〇％、大浦の土地区画整理事業二九・三％が計画区域に入っています。

▲次回は、後免町市街地再開発の中で、モデル的に実施されている後免町一丁目、一・九％についてご紹介します。



南国らしいにぎわいと  
うるおいのある街

文化の森公園がセットされた街づくりといったところで、幅員二五・二七(一部一六)の都計街路を十文字に整備し、街の中を野中兼山のつくった「舟入川」が流れる水に親しむ街づくりという感じ

「ごめん」というユニーク